




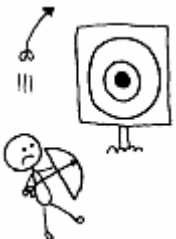

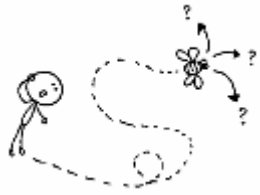



研究テーマの見つけ方・深め方

田中 武夫(山梨大学)

1. なぜ研究テーマが重要なのか

- (1) 実りある価値ある研究を行うため: 良い研究テーマを研究することは誰かの役に立つかもしれない
- (2) 研究スキルを向上させるため: 研究テーマの見つけ方は、研究スキルの重要な要素の一つである
- (3) 研究のプロセスを楽しむため: 魅力的なテーマが見つければその研究を楽しんで行うことができる

2. 研究テーマによく見られる問題点とは

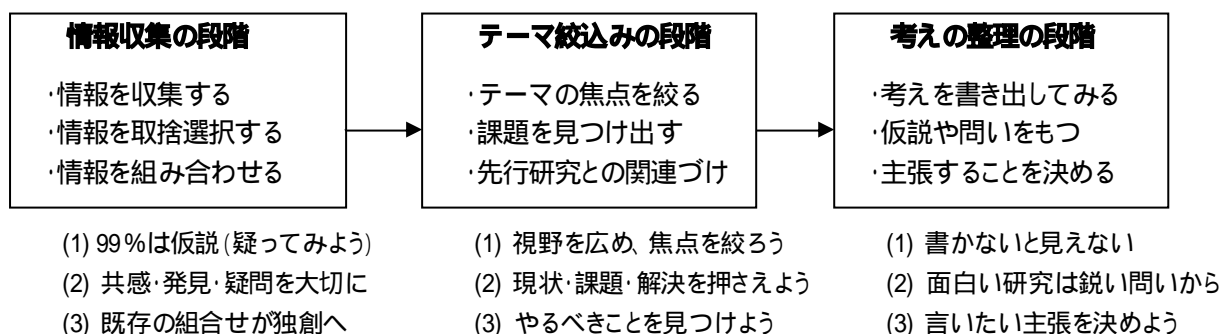
<p>(1) テーマが大きすぎる</p> 	<p>(2) テーマに盛り込みすぎる</p> 	<p>(3) テーマがわかりにくい</p> 
<p>(4) テーマが的外れである</p> 	<p>(5) テーマにオリジナリティがない</p> 	<p>(6) 研究プロセスがイメージできない</p> 
<p>(7) テーマに主張がない</p> 	<p>(8) テーマが思いつきである</p> 	<p>(9) テーマに価値を感じにくい</p> 

3. 面白い論文（研究）の条件とは（酒井, 2002 より）

- | | |
|------------------|-------------------------------------|
| (1) わかりやすい | (5) 問題解決のための新しい仮説・理論・手法・技術などを提示している |
| (2) 研究テーマに意義がある | (6) 読者が予想できなかった結果を出している |
| (3) 説得力がある | (7) 今まで得ることのできなかった結果を出している |
| (4) 新しい問題を提示している | |

4. 研究テーマを見つける・深めるために

4.1 研究テーマを見つけるプロセス



4.2 研究テーマはどこからくる？

- (a) 研究者自身の経験や関心
- (b) 英語教育関連の先行研究
- (c) 英語教育以外の先行研究

4.3 情報を収集するポイント

(1) 研究情報収集（=現状分析）のためのステップ

	ポイント	具体例
Step 1	そのテーマに関わる研究の研究スタイルを知る	調査型？実験型？分析型？など
Step 2	その研究を理解する（行う）ための鍵になる概念を見つける	inductive/ deductive, explicit/ implicit knowledge など
Step 3	その研究テーマに関わる先行研究の最前線を知る	最新論文の結果や成果をチェック
Step 4	その研究テーマに関わる研究成果の課題・問題点を知る	どんな点がまだ研究不十分なのか？

(2) 研究情報のリソース

	具体例
論文	Nobuyoshi, J. & Ellis, R. (1993). Focused communication task. <i>ELT Journal</i> , 47, 203-210. など
専門誌	海外学術誌: <i>ELT Journal</i> , <i>Language Learning</i> など. 国内学術誌: <i>JACET Bulletin</i> , <i>ARELE</i> など. 専門雑誌: 『英語教育』(大修館) など
図書	単著 Ellis, R. (1985). <i>Understanding second language acquisition</i> . Oxford: Oxford University Press / 論文集的図書: Doughty, C. & Williams, J. (Eds.). (1998). <i>Focus on form in classroom second language acquisition</i> . Cambridge: Cambridge University Press. / 和書: 門田修平・野呂忠司(編) (2001). 『英語リーディングの認知メカニズム』 東京: くろしお出版

(3) 研究論文の見つけ方

	名前	特徴	ホームページ
国内論文	GeNii (国立情報学研究所)	国内の論文、図書、雑誌、科研から検索(無料)	http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp
	NDL-OPAC (国立国会図書館)	図書、雑誌新聞、電子資料、和古書・漢籍、博士論文の検索可(無料)	http://opac.ndl.go.jp/
	MAGAZINEPLUS (日外アソシエーツ)	一般誌から専門誌、大学紀要まで収録した日本最大規模データベース。地区英語教育学会紀要の検索も可(登録必要、大学での登録の可能性あり)	http://www.nichigai.co.jp/database/index.html
海外論文	Eric (Education Resources Information Center)	英語で書かれたジャーナルの論文や図書などの研究論文の検索可。論文の要旨も見ることができる(無料)	http://www.eric.ed.gov/
	Google Scholar	ウェブ検索サイトのグーグルの一つ。論文、学術誌、出版物、図書館の公開する資料などが検索できる(無料)	http://scholar.google.com/
	Ingenta	各ジャーナル最新論文の要旨入手可。Language Learning、Language Teaching Researchなどの文献をPDF形式で入手可(大学契約の場合のみ)	http://www.ingentaconnect.com/

(2007年6月現在)

(4) レビュー論文のすすめ

レビュー論文とは、ある分野でのこれまでの研究動向をコンパクトにまとめている論文や論文のセクション

	具体例
図書の場合	洋書では、Ellis, R. (1994). <i>The Study of Second Language Acquisition</i> . Oxford: Oxford University Press. 和書では、小池生夫(編). (2004). 『第二言語習得研究の現在』東京: 大修館書店
論文の場合	洋書では、Hyland, K. & Hyland, F. (2006). Feedback on second language students' writing. <i>Language Teaching</i> , 39: 2, 83-101. SSLAなどのジャーナル最新論文の先行研究をレビューしているセクション

(5) 99.9%は仮説(=疑ってみよう)

(6) 共感・発見・疑問を大切に

(7) 既存情報の組み合わせこそオリジナル

	既存情報の組み合わせ例
理論的研究の場合	テーマに関連する諸研究の成果や課題・研究方法 新しい視点や課題などを見つけ出す
実践的研究の場合	普段の指導での経験や他者の授業や図書情報をストック 新しい指導方法や論点などを見つけ出す

4.4 テーマを絞り込むポイント

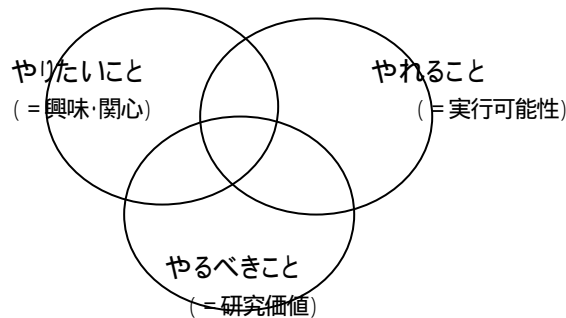
(1) 視野を広め、焦点を絞ろう

(2) 現状・課題・解決を押さえよう

「現状 課題 解決法」の3段階法で研究テーマを固める

	現状(例)	課題(例)	解決法(例)
理論的研究	ある研究分野での現状 (= 研究動向)	解決すべき課題 (= 先行研究での課題)	解決方法の検討 (= 新しい研究仮説や検証)
実践的研究	実践指導の局面での現状 (= 指導経験)	解決すべき課題 (= ぜひ解決させたい事柄)	解決方法の検討 (= 新しい指導方法など)

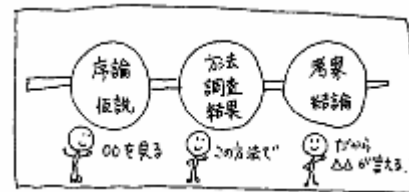
(3) やるべきことを見つけよう



4.5 考えを整理するポイント

(1) 書き出すと見えてくる

(2) 鋭い問いをもとう



(3) 言いたい主張を決めよう

5. 研究テーマの見つけ方・深め方に関する推薦図書

Seliger, H. W. & Shohamy, E. (1989). *Second Language Research Methods*. Oxford: Oxford University Press. (土屋

武久ほか訳. (2001). 『外国語教育リサーチマニュアル』東京:大修館書店)

英語教育の研究手法について研究サイクルの諸段階ごとに詳しく方法をまとめている。英語教育において研究をする者にとっての必読書である

大野木裕明・中澤潤. (2002). 『心理学マニュアル:研究法レッスン』京都:北大路書房

心理学での研究方法をまとめた本であるが、英語教育における研究に参考になる点が多い。とくに、いくつか提示されているモデル研究のまとめ方などは、英語教育における研究のまとめ方として大いに参考になる

参考：英語教育研究法ホームページ

今回の英語教育研究法セミナーにおけるすべての発表者の資料は、以下のホームページに掲載されています。2日目のセミナー2は、2会場に分かれています。もう一方の会場での発表資料もダウンロードできます

<http://www.urano-ken.com/research/seminar/>

引用文献

酒井聡樹 (2002). 『これから論文を書く若者のために』東京:共立出版